

ハンドルの重みは命の重み

交通事故・飲酒運転ゼロを目指して

A portrait of an elderly man with white hair and glasses, wearing a suit and tie. He is looking slightly to the right. On the left side of the image, there is a vertical column of Japanese text. In the top right corner, there is a large, stylized blue character 'ハ'.

いしばし・けんいち 1942年生まれ。北海道大学工学部卒業後、日新製鋼(現日本製鉄)入社。呉製鉄所エネルギー技術課、本社人事部などを経て、96年交通遺児育英会に出向。事務局長、専務理事、理事長を歴任し2023年6月より現職。

見えないところで支えられていた 島袋飛雄真さん(19) 南風原町

バイクで帰宅途中の父が信号無視の車に衝突され、死亡した時、私は小学校1年生でした。身近な人が亡くなるのは初めてだったので、震撼が過ぎませんでした。

は初めてたったのう、実感が湧きませんでした。

私は4人きょうだいの末っ子です。専業主婦だった母は、父亡き後、パートで働き始め、4人の子どもを育ててくれました。今考えると、大変だったと思いますが、私たちにそれを感じさせることはませんでした。子どもたちにさみしい思いや不自由な思いをさせないように、母を

うにさみしい思いや不自由な思いをさせないように、母を始め周りの大人たちが支えてくれていたのだと思います。コロナ禍で多くの中小企業が苦境に陥ったのを見て、マーケティングの力で企業を強くする手助けがしたいと思うようになり、今は沖縄国際大学で経済を学んでいます。将来は中小企業診断士になりたいと考えています。

7月に自動車運転免許を取得しました。5キロスピードを上げても到着時間はそれほど変わらないし、この信号をぎりぎりで通過できても次の信号で引っかかれば同じです。荒い運転をすると事故のリスクだけでなく、燃費も悪い。いいことは一つもないで、安全運転が一番です。免許取得費用は交通遺児育英会の補助を受けました。育英会の支援を知ったのは、今年に入ってからです。母の友人が教えてくれました。

育英会には支援者も多いと聞いています。私たちの気付かないところで支えてくれている人たちの存在を忘れず、社会にいい影響を与えるようになりたいです。

各団体の支援事業・育英事業

公益財団法人交通遺児育英会



公益財團法人 沖繩県交通遺児育成会



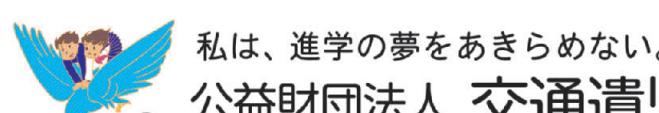
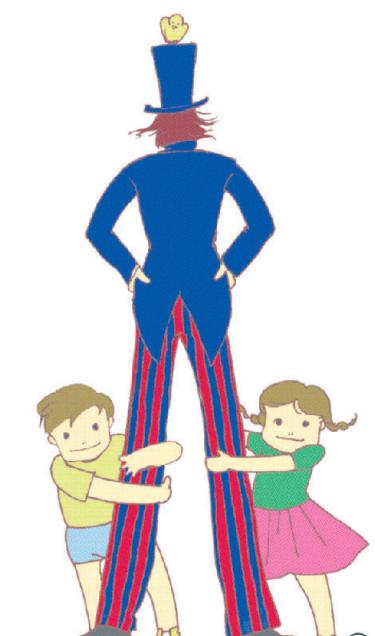
交通事故ゼロ、飲酒運転ゼロを目指して、無料出張講演を行っています。

交通遺児や保護者の方の体験を視聴いただくことは、交通安全の大切さを実感する絶好の機会となります。ぜひ、お問合せください。

交通遺児育英会は、50年以上にわたり、保護者が交通事故で亡くなったり、重度の後遺障がいのため、経済的に修学が困難になった子どもたちに、高校や大学・専門学校などへの進学を支援し続けています。修学を終えると、社会に役立つ人材として羽ばたいていきます。私たちの活動は大きく**5**つの事業で成り立っています。

- ① 奨学生の無利子貸与(一部給付)
 - ② 奨学生の指導および育成と交流
 - ③ 学生寮「心塾[®] (こころじゅく)」の運営

- ④ 修学支援金の給付
 - ⑤ 交通安全推進運動への
協賛・協力、無料出張講演等



私は、進学の夢をあきらめない。

公益財団法人 交通遺児育英会

募金課 ☎ 0120-521285 (平日9:00~17:30)
〒102-0093 東京都千代田区平河町2-6-1 平河町ビル3階

交通遺児育英会 検索
bokinka@kotsuiji.com